

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行

2020 7/5

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



みんな 子ども だった!?

④

きょうのテーマ

西本幸弘さんは国内外で活躍するバイオリンスト。仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽器演奏のまとめ役・コンサートマスターでもあるよ。どんな子どもだったのかな？

◇

おとなしい子どもでした。バイオリンと出会ったのは6歳。テレビでオーケストラを見て「コンサートマスターってカッコいい」と思いました。最初に弾いた印象は「遊べる」。おもちゃと同じくらい楽しめました。

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

演奏をほめられやる気に

た。美しい音を探して弾くようになり、それは今も変わりません。でも練習は嫌い。両親も分かっていて、ちやぶ

台をステージに成果を発表させられました。ほめられてやる気になり、前で演奏する感覚も養われました。

人と会うのが制限される時期だから、いろいろなことに興味を持ち、発見してほしい。発見はあすへの一歩だよ。



西本 幸弘さん(35歳・仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)

にしもと・ゆきひろ 札幌市出身。東京芸術大卒。英国王立北音楽院で首席栄誉(えいよ)付ディプロマ取得。2012年10月から現職(げんしよく)。九州交響(こうきよう)楽団コンサートマスターも務(つと)める。

ジュニアオーケストラにも所属し、中学では校内で演奏させてもらいました。周囲の応援が意欲や自信につながり、本気でバイオリンの道を志すようになりました。



音楽家として大事なことを学んだのは、大学卒業後に留学したイギリスで。先生から表現したいことを明確にするように言われました。

「オープンマインド(心を開くこと)になり表現したいものを表現することで、聴衆の心は動き、音楽家もそれを共有す

る」との教えは忘れません。音楽はコミュニケーションなんです。



帰国直後に東日本大震災が発生。被災地の力になりたくて自主制作CDを出し、売り上げを仙台フィルに寄付しました。その後仙台フィルで働くことになり、縁を感じます。復興支援のための音楽ワークショップを続けています。

新型コロナウイルスの影響で4カ月間人前で演奏できませんでしたが、お客さまは待っていて、音楽や芸術は生活の中にあると知りました。音楽家として貫くものは貫きつつ、形を変えてもコンサートというコミュニケーションの場をつないでいきます。

今週の注目ニュース

◇7月10日(金) 仙台空襲

太平洋戦争末期の1945年のこの日、アメリカ軍の爆撃機B29が仙台市に多くの爆弾を落とし、中心部が焼け野原と化した。1000人以上が死亡し多くの住民が家を失った、風化させてはならない悲劇なんだ。

きょうの紙面

- 2面 サイエンス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 この夏 おすすめの一冊
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー